

***** 今日の健康 (4月) *****
<帯状疱疹の発症予防に水痘ワクチン (その1) >

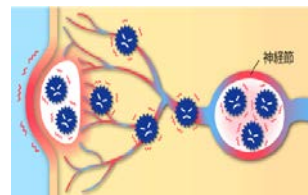
50歳過ぎて発症していなければ水痘ワクチン接種が有用

小児を対象に水痘ワクチンが2014年秋に定期接種化されたことにより、水痘患者の減少が見込まれ、水痘帯状疱疹ウイルスへの曝露の機会が減ることで、帯状疱疹の患者が増える可能性が懸念されています。専門家は50歳過ぎて発症していなければ水痘ワクチン接種が有用であり、重篤化しやすい中高年層にも水痘ワクチン接種を勧めています。

帯状疱疹は、過去に感染した水痘帯状疱疹ウイルス (VZV) いわゆる水痘 (みずぼうそう) の再燃により発症する疾患で、VZV に初感染すると水痘として発症し、体内では VZV 特異的細胞性免疫というものが誘導されて、いったん治癒します。治癒と言っても、身体から VZV がなくなるのではありません。免疫的に VZV を抑え込んでいるだけです。



その際、VZV は血流を介して知覚神経節に侵入し、その後、生涯にわたり神経節にかくれて潜んでいくことになります。そして症状として出ないウイルスの活動を繰り返したり、水痘患者と接触したりすることで自然界から免疫が刺激され、VZV 特異的細胞性免疫が活性化し保たれています。



加齢、疲労、ストレスなどがきっかけとなり、VZV 特異的細胞性免疫が低下すると帯状疱疹として発症します。

水痘ワクチンの定期接種化により、水痘患者が減ることで VZV に曝露される機会が減少します。その結果、自然界から免疫が刺激されることがなく、VZV 特異的細胞性免疫が再活性化せず、免疫が徐々に低下し、VZV を免疫的に抑え込めなくなり、帯状疱疹の発症者が増加すると考えられています。細胞性免疫が低下すると、ウイルス量が増えやすくなるため、痛みや感覚異常が長期間残る帯状疱疹後神経痛を発症しやすくなるとの報告もあります。

帯状疱疹の症例では、多くの場合痛みは皮疹の治癒に伴い軽減しますが、高齢者では帯状疱疹後神経痛を来すことが多く、その他、三叉神経第1枝領域に帯状疱疹が生じた場合は眼合併症を、耳介部に生じた患者では顔面神経麻痺・難聴・めまいなどを来すハント症候群を生じます。また、まれに髄膜炎や脳炎を合併することが知られています。

記事紹介 2015.2月号日経メディカル

東京慈恵会医科大学皮膚科学元教授本田まりこ (まりこの皮膚科、横浜市鶴見区)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏